誰もが抱える悩みをパパッと解決！

# 福田貴一先生の福が来るアドバイス

## 中学受験を通じて様々な力を身につけましょう！

早稲田アカデミー
本社運営部長
福田 貴一

中学受験をすることを決め、勉強を始めた瞬間から気になるのが目先の成績です。もちろん、「次のテストは100点を目指そう！」と目標を立てるのは良いことです。しかし、目先の目標ばかりを追い続けると、本当の意味で必要な力が身につかない場合があります。中学受験を無事に乗り切るためには、どんな力が必要なのか、また、その力を身につけるためには何をすれば良いのかについて考えてみましょう。

### 受験勉強で身につく力

中学受験を通じて子どもたちが得るものは何でしょうか。ひとつは言うまでもなく、「希望校に進学するための切符」です。そしてそれ以外にも、「勉強する習慣」「自分なりの学習ノウハウ」「忍耐力」「話を聞く力」「困難を乗り越える力」「真剣に取り組む力」「目標にむけて努力していく習慣」など、高校・大学受験の際や社会人になってからも必要になる様々な習慣や力を得ることができます。

たとえば、中学受験では欠かせない暗記も「自分なりの学習ノウハウ」のひとつです。子どもたちは小学校に入れば漢字の練習を毎日のように行います。しかし3、4年生までに習う漢字はたとえ毎日練習しなくても、5、6年生になれば自然に書けるようになるものばかりです。それをあえて毎日練習させる理由は「暗記をする習慣」と「暗記の仕方」を身につけさせるためなのです。

とはいっても、漢字を覚えさせるためだけだと、すべての漢字を10回ずつ書かせても意味はありません。1回書けば覚えられるものを10回書いても、9回はただの作業にしかならないからです。反対に10回書いても覚えられない漢字は覚えられるまで書く必要があります。このように、漢字の練習を通じて、子どもたちは自分なりの暗記方法、つまり、学習ノウハウを身につけていくのです。

### 「考え方」や「思考力」は教科に関係しない!?

小学4年生で学習する「速さ」の問題。「速さ」には3つの要素、「速さ」「距離」「時間」があり、「『速さ』×『時間』=『距離』」といった公式を覚えれば、ある程度の問題は解くことができます。しかし、本当の意味で子どもたちに身につけさせなければならないのは、公式を使って解くことではなく、「なぜ、そうなるのか」といった考え方です。

たとえば、「速さ」と同じように考えれば解ける問題に「割合」があります。「割合」にも、「割合」「元になる数」「比べる数」の3つの要素があり、計算式は基本的に「速さ」と同じ形です。また、理科で登場する水溶液の問題も「割合」や「速さ」と同じ形の式で解けます。つまり、「速さ」や「割合」の考え方を正しく理解できれば、その後に学ぶ算数の内容はもちろんのこと、理科の問題も応用ができるのです。また、「逆から考える力」も、算数ならば逆算、国語ならば理由を問う問題などのように、身につけさえすれば教科を問わずに活用することができるでしょう。

このように教科ごとの解き方にとらわれず、考え方や思考力そのものを身につければ、いずれの教科も飛躍的に成績が伸びる！これも中学受験を通じて得ることができる力のひとつです。

### 成績はアップダウンするものです！

初めて塾に通い始めた子どもの場合、入塾してすぐのころは成績がどんどんと伸びていくでしょう。「このまま順調に伸びれば…」と期待されることと思いますが、初めのうちに伸びるのは、それまで勉強していなかったからのこと。ある程度勉強することが日常化すれば、成績はアップダウンを繰り返し、ときには停滞することもあるでしょう。でも安心してください。いずれ、成績は必ず伸びてきます。ただし、伸び悩んでいる時期にどれだけ我慢して勉強し続けられるかどうか。これが成績アップする時期や伸び幅にかかわってきます。

では、成績が伸びるのはどんなときでしょうか。子どもによって個人差はありますが、3、4年生ならば、“何となく中性的だった子が女の子っぽくなった”、“男の子っぽくなった”など、雰囲気や顔立ちが変わったとき、つまり精神的に成長したときです。しかし、精神的に成長したとしても、それまでの時期にどれだけ我慢し、知識を蓄積できたかによって、そのタイミングが訪れたときの伸び幅に違いが出てきます。

### 「頭の中のタンス」を鍛えましょう

私は、頭の中には知識を入れるための「タンス」があると考えています。この「頭の中のタンス」は、1、2年生でいろいろな知識をインプットすることで、どんどんと大きくなり、頑丈になっていきます。そして、3、4年生では「頭の中のタンス」にたくさんの引き出しや仕切りを作ります。5、6年生になれば、さらに知識をインプットしながらも、それと同時に「頭の中のタンス」の引き出しを開け、そのなかから必要な知識だけを取り出す作業、つまりアウトプットトレーニングをしなければなりません。

言うまでもありませんが、タンスというものは引き出しが多く、さらに仕切りがあればあるほど、なかに入れたものは取り出しやすくなります。つまり、5、6年生になってから、実力テストなどで力が発揮できるかどうかは、3、4年生のころに「頭の中のタンス」の引き出しや仕切りをどれだけたくさん作れたかによって変わってくるのです。

### 考えられる子どもに育てましょう

中学受験勉強で大切なのは、「できるようになる」ではありません。もしも、「できるようになる」だけで良いのであれば、条件反射的に“これが出たらそれ”というパターン学習をさせれば良いだけです。特に3、4年生のころはパターン学習の成果が出やすく、時間さえかければある程度の成績が取れるようになります。しかし、このパターン学習だけで知識を身につけると、必ず5、6年生になったときに壁にぶち当たります。たとえ、何とか希望する中学校に合格したとしても、高校生、大学生になってもパターン学習のクセが抜けず、またもや壁にぶつかってしまうでしょう。その壁を乗り越えるためには、やはり、「頭の中のタンス」にインプットした知識をいろいろと組み合わせ、アウトプットできる力、つまり、考える力が必要になるのです。

ある難関私立中学校の算数の先生は次のように言われました。「今まで見たことがない問題が出題されたとき、その場で『この問題ならばこうすれば解ける』と考えられる生徒が欲しい」と。この先生の言葉通り、これからの中学受験は「知らないから解けない」は通用しません。今、知っていることや、持っている知識で何とか解こうとする「考える力」、「自分で切り開いていく力」、これが非常に重要なのです。

もちろん中学入試では、初めて見るような難問ばかりではなく、基礎基本の問題も出題され、しっかりとした土台ができあがっているかどうかも確認されます。しかし、中学入試で合否を決めるのは、パターン学習の成果が出やすい基礎基本ではなく、そこからプラスアルファされる「考える力」「自分で切り開いていく力」なのです。そして、これらの力を身につけられるのが中学受験のための勉強であり、それこそが中学受験をする一番の目的であることを忘れないようにしたいものです。

ブログ 福田貴一 四つ葉cafe 公開中！

中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者のためのブログです。
本社運営部長 福田 貴一

早稲田アカデミーホームページにて公開

中学受験に関するブログを公開しております。
このブログでは、学習計画の立て方、
やる気の引き出し方、テストの成績の見方、
学校情報など、中学入試に関する様々な情報を
お伝えします。

詳細はホームページをご確認ください。
早稲田アカデミー 検索